

宮島伸子さん（博士前期課程2年）が第62回日本生態学会大会で最優秀賞を受賞しました

3月18日から3月22日に、鹿児島大学（鹿児島市）で行われた第62回日本生態学会大会において、大学院自然科学研究科環境科学専攻流域環境学コース・博士前期課程2年の宮島伸子さん（指導教員：崎尾均 教授）の研究発表がポスター発表部門の最優秀賞を受賞しました。

本研究は、佐渡島における放牧縮小後の戦後の草原面積の面積変化及び残存草原の種組成を放牧履歴及び立地環境から明らかにする目的で行われ、成果として、戦後の草原面積の変化は風の影響を受ける場所に草原の多くが残存し、残存草原の種組成は遷移段階の異なる放牧植生と風衝植生となり不嗜好性木本植物の増加につながることから、放牧縮小により、景観的には元来成立していた自然草原に戻りつつあるが、異なる種組成の植生に変化しつつあることが分かりました。

発表者：宮島伸子（新潟大学大学院自然科学研究科・博士前期課程2年）、

川西基博（鹿児島大学教育学部・准教授）、崎尾均（新潟大学農学部・教授）

演題名：佐渡島の林間放牧縮小が半自然草原の植生変異に与えた影響

リンク：<http://www.esj.ne.jp/meeting/62/>



左図 表彰式の様子

右図 受賞したポスターと賞状